資料２－２

国土審議会計画推進部会　国土管理専門委員会
まめってぇ鬼無里事例発表「持続可能な中山間地域の活性化を目指して」

特定非営利活動法人まめってぇ鬼無里　事務局長　吉田廣子

持続可能な環境共生社会をめざして

平成 17 年１月１日、旧鬼無里村は長野市に併合され、現在は長野市鬼無里地区となりました。農林業だけの収入では生活できないために、若者の流出は必然的に起こりました。流出に伴う少子高齢化と過疎化の進行、農業後継者不在と耕作放棄地の増加など、中山間地域の深刻な疲弊は鬼無里地区を含む合併町村すべてに拡がっています。地球温暖化、人口減少という２つの側面からの「持続可能な」を意識し、中山間地域特有の社会問題（課題）を整理すると、次のようになります。

①若者の地区外流出と皆無に近いＩ/Ｕターン者
②高齢化・過疎化・耕作放棄地増加・里山荒廃
③化石燃料依存社会

一方で、鬼無里地区には地区面積(135.64 ㎢)の 95%余りにブナを含む広大な森林で覆われた豊かな自然があります。森林資源は木質バイオマスエネルギーに、水資源は小水力発電に、太陽光は太陽光発電として空気の冷涼化による発電効果が期待できるなど多様な自然エネルギーの宝庫でもあります。
これらを活用し持続可能な環境共生社会を構築することが必要と思います。

耕作放棄地・里山荒廃の現状と課題

過疎化が進む豪雪地帯である鬼無里。

かつては善光寺周辺の市街地に薪や炭を供給していたエネルギーの生産地でした。人々の営みによって永い長い年月をかけて維持されてきた鬼無里の森や里山は荒廃が進み、50 年前までそこにあった美しさ・豊かさ・強さが失われています。

見晴らしのよかった眺めも支障木に覆われて

30 年前に植えられたまま放置されている杉

私たちは、人々がふたたび「里山」を利用することが里山の再生につながると考えました。

活動の開始

特定非営利活動法人まめってぇ鬼無里は、平成22年3月に「鬼無里地域の再生」を考える地区内の有志10名で活動を始めました。それぞれが考える鬼無里地区の課題と、課題の解決策を出し合い、法人の定款に盛り込みました。

特定非営利活動法人　まめってぇ鬼無里　定款より

（目的）

第３条　この法人は、自然に恵まれた鬼無里での地域住民の自然との共生、奥裾花の森林を中心に癒しを求めて訪れる人々との交流を通じて地域の活性化と観光振興に寄与する。その実現のため鬼無里地域の農林業の振興、遊休農地や里山の再生並びに活用に関わる活動を通じて、自然エネルギーによる持続可能な循環型環境社会の構築を目指し、地域資源の活用を図る。地域の歴史、伝統、文化に関わる活動に参画し、スポーツ等を通じて地域住民の健康の推進を図ることにより、新たな風土の形成とコミュニティづくりをし、元気な地域づくりに取り組むことを目的とする。

（事業）

第５条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

（１）森林整備・自然エネルギーの活用事業
（２）エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの企画運営事業
（３）自然を活用した環境教育事業
（４）自然環境の保全に関わる調査研究、啓発活動
（５）遊休農地等の再生・活用事業
（６）体験農園の運営事業
（７）地産地消および食育推進にかかわる事業
（８）農林業を介した都市農村交流にかかわる事業
（９）子どもの健全育成に関わる事業
（10）空家の活用に関わる事業
（11）乾燥野菜などの伝統色の活用事業
（12）その他、第３条の目的を達成するために必要と認められる事業

活動の展開

平成22年6月に科学技術振興機構（JST）が公募した戦略的創造研究推進事業研究開発プログラム「地域に根差した脱温暖化・環境共生社会」に「環境に優しい移動手段による持続可能な中山間地域活性化」というテーマで応募し採択され、3年間の調査研究を経て、持続可能な中山間地域再生に向けたシナリオを作りました。

シナリオでは、次の３つの側面に沿った活動が重要であること、特に、地区に潜在する自然エネルギー（木質バイオマス、水力、太陽光など）の活用（地産地消）を重視することを提案しています。これが、現在のまめってぇ鬼無里の活動の柱となっています。

1) 地域経済再生と地域コモンズ（共同体）の構築
2) 自然エネルギーの活用
3) 脱 CO_2 型ライフスタイルの提案

「鬼無里薪ステーション」の立ち上げ

前述の活動の柱のうち、2)の「自然エネルギーの活用」に沿った活動の一環として、平成 25 年３月１日に、薪の生産・運搬・利活用を総合的に取り扱うシステムの構築をめざして「鬼無里薪ステーション」を立ち上げました。生産された薪は多くの人たちの関心を呼び、市街地のストーブユーザーに届けられました。

鬼無里薪ステーション

鬼無里薪ステーションの活動は当初から指摘されていた鬼無里の社会問題のすべてに関連します。まず、薪の生産、分配（販売・輸送）や薪利用普及活動などの仕事起こしは、雇用機会の創出になり、①の「若者の地区外流出と皆無に近いＩ/Ｕターン者」対策に寄与できます。次に、支障木の伐採や里山の整備活動は、②の「高齢化・過疎化・耕作放棄地増加・里山荒廃」の解決にもつながります。さらに、木質燃料の利用が普及すれば、③の「化石燃料依存型社会」の脱出にも寄与できます。

これから鬼無里薪ステーションを、里山整備の取り組みに関する持続的かつ総合的な組織に育てあげなければなりません。

鬼無里薪ステーションの運営を通したまめってぇ鬼無里の役割

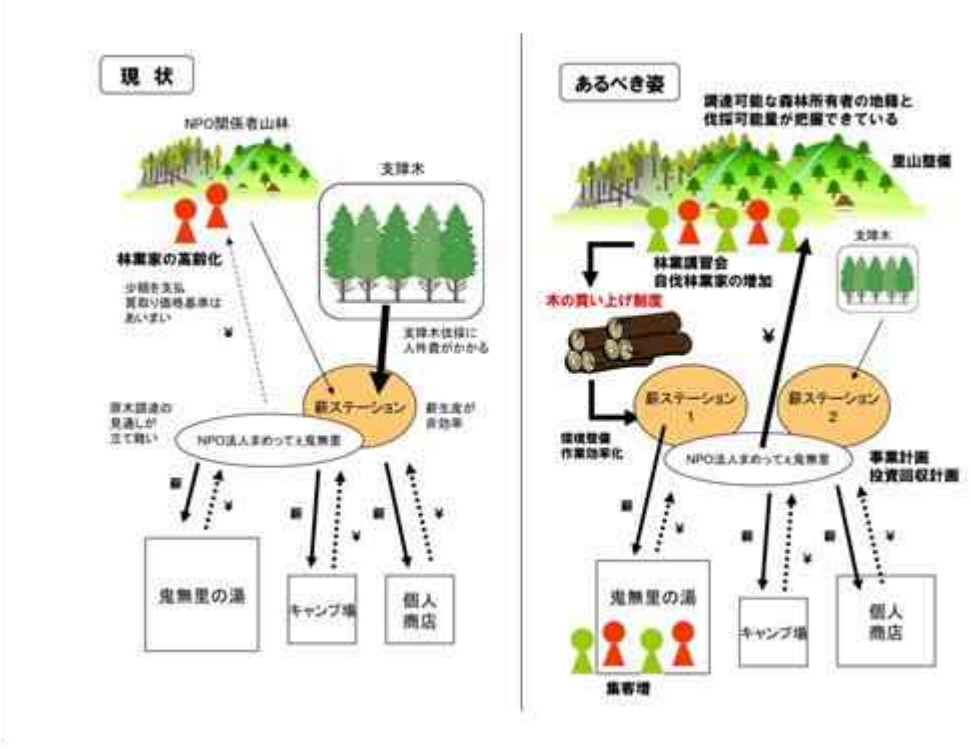
かつて、鬼無里にあるただ一つの温浴施設「鬼無里の湯」は、11℃の鉱泉の加熱に灯油ボイラーを使用し、年間約 70,000Ｌの灯油が使われていました。まめってぇ鬼無里では、薪ボイラーを追加して化石燃料（灯油）と木質燃料（薪）を併用するよう平成 26 年から長野市に提案してきました。温泉の加温用エネルギーは入浴者数の変動に対応が必要です。時間的変動のフォローには灯油ボイラーが便利ですが、定常的な加温や保温には薪ボイラーが適していると考えました。

市では、平成 29 年に薪ボイラーの導入を決め 12 月より薪ボイラーと灯油ボイラーの併用運転が始まりました。

このことにより、薪ステーションの持続的な供給体制づくりが必要になってきています。森林の管理や整備を行う人材の育成、木を買い上げる仕組みづくり、商品の生産と流通、消費地の確保などの課題を解決することが、これからの薪ステーションとまめってぇ鬼無里の役割と考えます。持続可能な薪の供給体制を作るため、今年度＜鬼無里 DE 薪活プロジェクト＞を立ち上げました。

＜鬼無里 DE 薪活プロジェクトが目指すもの＞

鬼無里住民・地域団体・行政等と連携の上、薪を生産・流通・利用するしくみをつくって
「里山」を活かす仕事と人を継承するきっかけづくりが私たちの役割と考えます。



太陽光発電所の設置

活動の柱の一つである「自然エネルギーの活用」に沿った活動として、遊休農地を活用した太陽光発電の設置にも取り組みました。

県の特別豪雪地帯に指定を受けている鬼無里地区において太陽光発電所の設置は無理だと誰もが思っていました。限られた予算の中、「雪に堪える」ではなく「雪をかわす」という発想で、造成、架台の組み立て、パネルの設置など自分たちでできる作業は自分たちで行い、平成２７年鬼無里地区内で最も日当たりの良い遊休農地に、手作りの低圧（５０KWｈ未満）発電所を設置することが出来ました。２年前の大地震や台風にも耐え、今日まで順調に稼働をしています。当所あきらめていた冬場の発電でしたが、予想に反し今年２月に今までで最高の瞬間発電量を記録しました。雪の反射による思いがけない効果でした。現在、まめってぇ鬼無里では事業主体の信州パートナーズアセット（株）より、発電所の管理業務を委託されており、有害獣対策の柵の補修や除草作業を行っています。除草作業には２頭のヤギが夏場活躍してくれています。

その他荒廃地解消や里山整備のために

鬼無里地区の豊かな自然と資源を様々な人に知っていただき、活動などを通して理解を深めていただきたいと思っています。地域課題を解決し地域を活性化するためにマンパワーを増やすことは最重要課題です。移住・定住者を増やすことも大切ですが、交流人口を増やすことも大切と考えます。

１　鬼無里の薪を活用しているお店や施設を利用する

◎奥裾花温泉　鬼無里の湯

◎野生酵母パン　ソノマノ

２　薪のある暮らしを体験する

築170年の囲炉裏のある古民家「ふるさとの家」では薪のある暮らしや田舎暮らし体験の視察研修を受け入れています。イベントなどでの活用も承ります。少人数でしたら宿泊も可能です。

３　里山保全活動に参加する

女性を対象とした林業体験講習会「もりがーる」や、伐木安全講習会、きのこの駒打ちなど里山の資源を活用しながら整備する「里山きなさ」などの保全活動を行っています。どなたでも参加できますのでお気軽にどうぞ。

４　薪づくりの仕事を手伝う

鬼無里薪ステーションでは薪づくりのボランティアを募集しています。企業研修や大学のゼミ合宿等でのボランティア参加も募集しています。

５　鬼無里の薪を購入する

自然豊かな里山でつくった鬼無里の薪。乾燥しているのですぐに使えます。

６　田んぼオーナー・酒米オーナーになる

遊休農地を活用して米作りを作っています。地域の人々と交流しながらの米作りに参加できます。１０月には擦りたての新米を１２月には搾りたての新酒をいただきます。

終わりに

JSTのシナリオ作りの中で行った観光客向けのアンケート調査の中に「将来どのような鬼無里であってほしいですか？」というものがありました。回答で多かったのが「今のままの鬼無里をのこしてほしい」というものでした。その思いは、この豊かな自然を残してほしいということだろうと思います。人が手を入れ管理しなければ、ただの荒廃地です。美しく豊かな自然を残すために、私たちは活用して残すことと次の世代に伝えて残すことを考えたいと思います。

資料２－２
（別冊）

今までに
こんな活動しました！

NPO法人
まめってえ鬼無里（きなさ）

キノコのこま打ち体験

奥裾花遊歩道整備

もりがーる

もりがーる

もりがーる

もりがーる

きなさのごはん【沖縄】

きなさのごはん【沖縄】

森あそび・森まなび

森あそび・森まなび

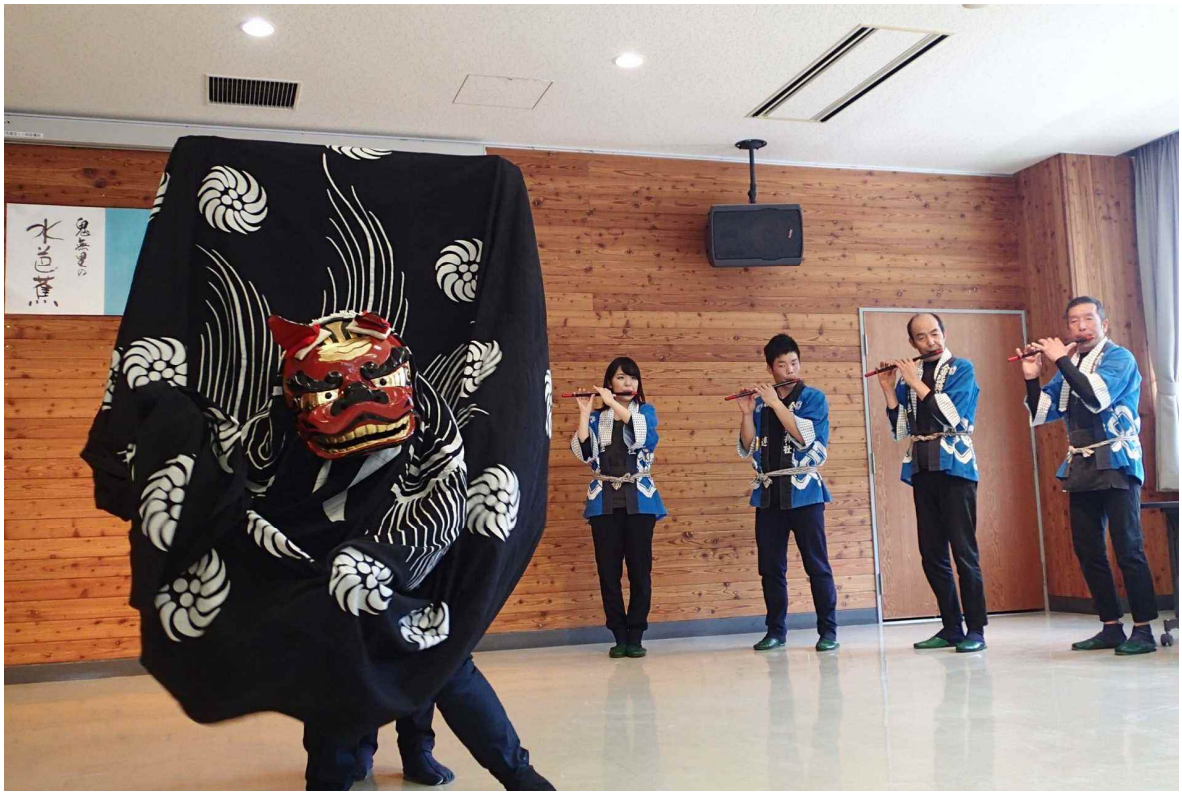
森あそび・森まなび

森あそび・森まなび

酒米くらぶ【田植え】

酒米くらぶ【田植え】

酒米くらぶ【田植え交流会】



酒米くらぶ【田植え交流会】